

東京修猷会

題字・箱島信一書

発行 修猷館同窓会
東京支部事務局

〒185-0034

東京都国分寺市光町2-14-85

(有)パルティール内

FAX 042-573-5060

東京修猷会ホームページアドレス

<http://www.shuyu.gr.jp>



我園に梅の花散るひさかたの天より雪の流れ来るかも

大伴旅人

「万葉のこころ」シリーズより

大宰師（大宰府の長官）大伴旅人の官邸で催された梅花の宴（730年）で詠まれた歌。大陸渡来の梅の花（白）は、当時、貴族の間では知られていたが、まだ一般的ではなかった。

柳 晃弘（さかき てるひろ）

写真集「装飾古墳」（朝日新聞社）

「眼鏡橋」（葦書房）

九州・沖縄歴史の町並み（東方出版）

薩摩の田の神さあ（東方出版）

「ローマ橋と南欧石橋紀行」（かたりべ文庫）

日本写真協会新人賞（一九七三）

日本写真協会年度賞（一九八四）

土木学会著作賞（一九八五）

伊奈信男賞（一九九一）

福岡市文化賞（一九九三）

万物は流転するが：



東京修猷会会長

箱島信一（S31年卒）

明けましておめでとうございます。平成20年という生まれたばかりの年をそれぞれに新たな感慨や決意をもって迎えられたことと思います。

私は昨年6月、藤吉先輩の後を継いで東京修猷会の会長に就きました。修猷館を卒業したのは昭和31年ですから卒業後すでに半世紀が過ぎ、昨年暮れには古希の寿を迎えました。同窓会の重責を引き受け老若さまざまな館友の方々とお会いするにつれて、10歳代半ば過ぎの懐かしく遙かな日々が甦る思いがします。

さて、新年はどんな年となるのでしょうか。21世紀に入って、激動という言葉が陳腐化するほど時代のうねりは激しさを加速しています。新年を展望して確かなことは、今年もまた私たちの予測能力と常識を遙かに超える事柄が相次ぎ起きるだろうということです。

予定されたこととしては8月に北京オリンピックが開催されますが、超大国への道を邁進する中国の実力と素顔をかなりくっきりと世界に見せる機会もあり、スポーツの祭典をはるかに超えた意義があると期待しています。

また5月にブーチン・ロシア大統領が任期切れとなり、アメリカで11月、大統領選挙が行われます。日本でも夏までには解散総選挙

があるでしょうし、イギリスも福田政権同様、船出早々のブラウン労働党政権が解散に打って出るのは時間の問題でしょう。

経済に目を転じると、最大の課題は世界中からの投資と借金の上に繁栄するアメリカ経済とそれに依存する世界経済、という危うい構図が破綻せずに何とか今年もしのげるのかどうか、ということに尽きると思います。

私は新聞記者を昭和37年以来やってきました。内外のニュースをウオッチして来てつくづく思うのは、ヘラクレイトスの言葉として伝えられているように「万物は流転する」ということです。

中国との間にまだ国交が無い30数年前、経済記者として日中問題を担当したことがあります。当時、貿易の最前線に立つ商社マンにとって、文化大革命の聖典である毛沢東語録は必携の商売道具でした。中国にはハエ一匹、盗人一人いない、とまことしやかに伝えられたものです。自民党政権は軍国主義復活に至る保守反動とされ、大企業は政治姿勢についてのチェックを受けない限りその子会社であっても出入り禁止でした。

社会主義市場経済という脱イデオロギー的理念の下に外資をがぶ呑みするように受け入れ、大胆な民営化で急成長を続ける中国の今を思えば、想像を絶する様変わりです。

変化をもたらした駆動力は、人間の欲望とその上に成り立つ市場であり、そのエネルギーの凄まじさを改めて見せつけられるような中国の変貌ですが、ことは中国に限りません。昨年7月、久々に訪れたイギリスの化け様もまた目を見張るものがありました。30年前特派員としてロンドンにいたころはストライキ頻発とポンド下落が対をなすようにして進み、斜陽化を絵にかいたような国の姿でしたが、一転して経済はブームでポンドは今や最

強の通貨。活気に満ちた街に老若男女を問わず超肥満体の人がえらく目立ち、これも好景気持続のせいかと妙に得心したものです。

万事変化してやまないのは産業や企業の興亡についても明らかですが、それらを促す欲望の爆発は21世紀を通じて果たしてとどまることがないのでしょいか。もし理性による欲望の制御が絶望的なら、資源と環境問題の行き詰まりから市場経済は早晩衰弱しやがて死に至るかも知れません。縁起でもないと思われるかもしれませんが、新年早々こんなことを思ったりしました。

万物流転は否定できない歴史の法則といえるでしょう。しかし、どう流転するかは人間の意志に関わっているはずで。二木会はこの1月、544回目からスタートします。東京修猷会が最も誇りとする学びの場でも、この「しかし」と「どう」を掘り下げていきたいものだと考えています。



2007年4月に有楽町で開いたグループ展の際の写真。箱島会長は、名古屋に赴任されていた1990年に書を始めたことです。

背後に掲示されている書はすべて箱島会長の作品です。今年から、今年の会報の題字もお願いしました。（編集部）

2007年度東京修猷会総会

「星を継ぐ者たち」修猷の現在

2007年6月8日（金）、恒例の東京修猷会総会および懇親会が、千代田区平河町の都市センターホテルで、開催された。当日は天候もよく、出席者635名（来賓を除く）という大変な盛会となった。

第一部 総会
福岡の新旧会長も参加

今回は、東京修猷会の会長の交代という節目の総会となり、藤吉前会長から箱島新会長へバトンタッチされた。合わせて、中川、大須賀両副会長が新たに就任。5月の福岡の同窓会でも波多野前会長から出光新会長に交代されており、新旧両会長も来賓としてご出席いただいた。

第二部 懇親会
お元気な岡先生

今回は、我々S56年卒が3年のとき2組と4組の担任であった水崎雄文先生（日本史）、白木英治先生（保健体育）にご出席いただいた。

第三部 懇親会
太鼓の生演奏とプロの司会で進行

懇親会は、例年どおり「館歌斉唱」でスタート。マイクに頼らず、地声で勝負の宮川先輩（S12年卒）に乾杯のご発声をお願いいただいた。

今年の学年企画は、「星を継ぐ者たち」修猷の現在」と題して、現在の修猷館高校の様子を軸に過去の映像等を織り交ぜたビデオを流した。ナレーションは、同期の堤信子さん。様々なテレビ番組で活躍するプロのアナウンサーである。

現在の修猷生の日常生活、文化祭、運動会、予餞会そして過去の運動会の様子が流れたところには、生の太鼓の音とも相まって、会場が静かになり、学年ごとに思い思いに懐かしんでいる様子だった。

学年企画の後に、ヨットで北京五輪を目指している石橋頭君（H4年卒）の挨拶があった。活動資金のために会場であつたTシャツは完売だったとのこと。

その後、福岡の同窓会の幹事

太鼓を持ち込むことについて

水崎先生については実家が隣という吉浦麻子さん（旧姓）、白木先生については剣道部の松尾方洋君が担当し、先生方との息の合ったトークで会場は大いに盛り上がった。

お二方とも、当時と変わらずお元気で、白木先生にいたっては、総会の翌日、九大の教員としての稽古会にお出かけになったとのこと。パワフルさは健在だった。

最後に

学年の先輩方、次いでH19年卒の新入会員が登壇した。新入会員登壇の際には、最長老であるS9年卒の先輩お二人にも登壇願った。年齢差実に73歳！ かくしゃくとした先輩の挨拶と初々しい新入会員の様子は会場に元気を与えてくれたようだ。

次年度幹事はS57年卒の皆さん。幹事団の代表で小林大輔君が来年の抱負を語った。

最後は恒例の「彼の群小」で締め、総会は無事終了した。懐かしい写真を見ながら、立ち止まる人が多く、いつまでも名残は尽きなかった。

最後に

本日に楽しかった！
これが、総会が終わった瞬間の偽らざる私の気持ちでした。幹事学年の多くは会場の外におり（会計担当は客室に併結め）、懇親会を楽しみむことはできなかったはずですが、みんな満足の表情でした。

2007年度東京修猷会総会報告・番外編

「幻のラーメン企画」報告

西新での修猷時代の思い出は、下校途中、仲間とすったラーメン（我々昭和56年卒の時代では、「しばらく」と「みち」の味が忘れられませんが、東京で美味い豚骨ラーメンに出会った時、西新の青春時代を鮮明に思い出すのは私だけではないと思われまふ。

我々は福岡食文化の代表（単なるB級グルメ？）にスポーツを当て、東京修猷会会員が選ぶ東京の豚骨ラーメンランキングを発表することを総会のサブ企画としました。段取りとしては、

①美味いと噂のお店を選定、②実際に各店を取材し候補を絞込む、③その結果を基にアンケートを実施しランキングを作成することを考えていましたが、②の途中で時間切れ。結局、この企画は日の目を見ませんでした。が、情報をお蔵入りさせることはもったいない。ということ、我々同期の中で評判が良かった

ったお店をご紹介します。吞龍、暖簾、やまちゃん、由〇は、スタンダードな長浜ラーメン系（比較的さっぱり）、これら以外



店	住所	コメント
ばたん	東京都新宿区高田馬場3-12-9 海野ビル1F	本店は北大塚。田中商店系列では他に松戸の福福、埼玉の楓神がある。
御天（ごてん）	東京都渋谷区千駄ヶ谷5-15-8	本店は杉並区井草。御天の系列では他に世田谷の博多白天、新井の博多食堂がある。
田中商店	東京都足立区一ツ家2-14-6	都心から遠いが、味は絶品。
よかろうもん	東京都墨田区緑3-17-8	両国・錦糸町近くに寄られた際は是非。
博多白天（しろてん）	東京都世田谷区桜3-8-14	ここも都心から遠いのが難点。
吞龍（どんりゅう）	東京都港区東新橋1-2-13	都心に近い。銀座で飲んだ後は是非。酒もつまみもあります。
暖簾（だんば）	東京都千代田区神田錦町1-14-1	都心に近い。本店は筑紫野。豚骨臭くない。
やまちゃん	東京都中央区銀座3-11-10	都心に近い。さっぱり系。本店は長浜屋台。
由〇（よしまる）	東京都中央区八重洲1-8-9 他	スタンダードな博多の味。都心に店多数。

修猷館SNSのご紹介

修猷館同窓生のためのSNSを開設しました。SNSとはSocial Network Serviceの頭文字で、インターネット上で知り合い同士がコミュニケーションをとり合うための集会的な場です。一般にはmixi（ミクシー）というサービスが有名で、mixiにも修猷館同窓生が集まる場所がいくつかあります。

修猷館同窓生のためのSNSを開設しました。SNSとはSocial Network Serviceの頭文字で、インターネット上で知り合い同士がコミュニケーションをとり合うための集会的な場です。一般にはmixi（ミクシー）というサービスが有名で、mixiにも修猷館同窓生が集まる場所がいくつかあります。

東京修猷会2008年度総会のご案内
テーマ:「時空を超えて修猷の絆を強める」

2008年6月13日（金）18:00より平河町：都市センターホテル
幹事学年：剛質会（昭和57年卒）

6.13

今年は第2金曜日

08

「PAPA」NEWS

松本 渉（H10年卒）

「つらい」がいいんだよ」

私は欽ちゃん球団こと「茨城ゴールデンゴウズ」に所属しています。結成3年目の今年、九月の全日本クラブ野球選手権で優勝しました。私は準決勝で九回二死から逆転タイムリーを打つことができました。冒頭の言葉がチームに浸透してきた萩本イズム。「まず目標を決める。その過程で良い時もあれば、悪い時もある。うまくいかない時、つらい時にこそ運が溜まり、その運は勝負どころで発揮される」という考えです。



打席に立つ。緊張の瞬間だ

で打てるから」と。

今の主な業務は地方新聞社の広告収入のため、広告主から宣伝費をもらうことですが、新た

に今年四月に立ち上げた「47クラブ」というネット通販事業に注力しています。全国の地方紙が集めた名産物や逸品を取り揃えたショッピングモールです。この事業で地方が活性化し、地方紙の広告が増えれば最高です。

れ、大変刺激的な毎日です。これから「つらい」がいい、太い人生を歩んで行けたら幸いです。



私が逆転タイムリーを打ったときのベンチの様子。右が、萩本欽一さん、手前の女性は片岡安祐美さん

創造の現場

山本 麻紗子（H11年卒）

大学卒業後、企画・デザイン事務所で3年間、プランニング、ディレクション業務に携わり、現在パフォーミング・アーツクラブ「パパ・タラフマラ」の制作と、主宰者兼演出家のマネージャーをしている。1982年に設立されたこのカンパニーは、ダンス、演劇、美術、音楽など様々なジャンルを巻き込みながら、舞台空間全体を一つのアクトに築き上げる手法の運営、そして会社の経営と実は様々な仕事を抱えている。そのどれもが異なる種類の仕事ではあるが、実はどれも人と人、人と物、人と場所。あらゆる関係性で成り立っている。自分はきつと、あらゆる物の接点に立ち、異なる媒体、何かと何かを結びつける仕事できつと向いているのだからと、勝手に思っている。

境界線に立つと、全てが見渡せる。今、自分にできることと、できないことを、五年後にはどこまで変えられるだろう。十年、二十年後には、いったい何が見えてくるだろう。

（パパ・タラフマラHP <http://papa-tara.com>）

人は人で磨かれる

遠藤 留衣（H11年卒）

私は現在、東京の聖路加国際病院で勤務しています。日々の業務に追われ、病院と自宅との往復の毎日で、気がついたら五年目の看護師です。

看護師として働いていて、一番難しいと感じるのは、患者のニーズを把握することです。このアセスメントがずれてしまうと、最良の医療を提供することには繋がりません。もちろん、スキル、テクニクを磨くことは大事です。しかし、どんなにすごい技術を持っていたとしても、患者が望んでいるものを提供できないければ、技術を持っていないことと同じだと考えています。



んでいる時、鳥が鳥を背負って飛ぶことは出来ない。一羽一羽が自分で飛んでいる。それと同じで、人がチームを組んで目的地向かう時、人が人を背負って走ることはいらない。一人一人が自分で走らなければならぬ。やっと私も一羽の鳥になれたのではないかと最近思う事が出来るようになりました。これまで私にかかわって下さった、患者さんたちやスタッフ、友人のおかげと感謝しています。「人とのつながりを大切にすること、三年間に学んだことのひとつ、常に心に留めて勤務しています。たくさんの人とかかわりながら、自己の成長を実感する充実した毎日を過ごしています」（編集註：コメディカルⅡ医師以外のX線技師、理学療法士などの医療スタッフ）

通信制校舎で初ライブ、そのときと気持ちは同じ

黒田 晃太郎（H10年卒）

「フラバルス」という一人ユニット名で現在音楽活動をしている。僕が音楽を始めたのは中学の頃に遡ります。ビートルズをはじめとして



は、今もうありませんがあの通信制の校舎内のステージです。部活（ラグビー部）の仲間を呼んでかなり熱狂的に盛り上げて捨てられずあえなくドロップアウト。大学4年のときに、自分で作詞作曲して自分で歌うバンドを組んで、都内のライブハウスでライブをするようになりました。それから4年後、コロンビアミュージックエンタテインメントと契約し、2006年にメジャーデビューして現在に至ります。

僕も歳は28になり、周囲の環境も変わりましたが、「自分の音楽を一人でも多くの人に聴いてほしい」という気持ちは10年前の通信制校舎でライブをしていた頃と全く変わりません。あの頃の快感が忘れられずに今も続いているとも言えるでしょう。昔とステージは違えど「まだまだこれから」という点では昔と同じ。初心を忘れず頑張っていこうと思います。皆さんぜひサイトにアクセスして、CDを買ってください!!

公式サイト <http://nullabaloos.jp>

若い広場

当初は仕事との両立に苦しみ、欽ちゃんにも会社を辞めたいと相談しました。返事は「ダメだよ」。「アマチュア野球ってのは『運』なんだよ。会社でいっぱい『つらい』思いをしながら、一生懸命練習しているだけじゃ野球はうまくならない。誰かのためにいっぱい『つらい』思いをしながら。きつといい場面



同僚と。右から3人目が私

各国で活躍する卒業生

仕事いろいろ

ロサンゼルスで巡り会った仕事

山田 哲義 (S49年卒)



さがしていた仕事は、やっと見つかった！ 僕がこれまでやってきた仕事とは、やりたかったことではなく、アメリカという国で、食い繋ぐための収入手段であったと思う。今回見つけたのは給料が全く貰えない仕事だ。その仕事とは、ロサンゼルスにある『全米日系人博物館』での教員職だ。どうしてアメリカか？で、博物館？なのかな。

博物館で、先駆者の苦勞を知った

話を本題の仕事のことに戻そう。博物館教員といっても、来館者の案内役のボランティアだ。ただ仕事内容が好きなようになってきたので、ライフワークになるかもしれないと思っている。とても楽しく、また人前で話す訓練にもなり、一石二鳥だ。

修猷卒業の翌年に渡米

博多商人の家に僕は生まれた。実家は、貿易商社を営む。将来アメリカに事業を拡大させるため、ロス行きの飛行機に飛び乗った。修猷館を卒業した翌年の1975年のことだ。僕は一人きりで「天津甘栗をアメリカ人に売る」という、壮大なる野望を持ってやって来た。



博物館で説明する山田さん

以来、32年が過ぎた。その間、20社以上の株式会社を設立。今も3社は経営中である(残念ながら、甘栗の会社は25年以上前に解散)。今や、僕はアメリカにおける会社の興し方やたまたみ方、商売のイロハについては、一言言っている、と自負している。博多商人の血脈は、海を越えてもロスの地で受け継がれているのである。

杉山 明日香 (H6年卒)



子どもたちに学問の楽しさを伝えたい

最近、子供たちの数学、理科離れが問題視されている。その原因のひとつは、教える側が子供たちに「学問の真の面白さ」を伝え切れていないということにあると思う。

教えることの魅力

その一方で、大学院在学時より私は、河合塾で数学を教え始めた。中学生のときから家庭教師をやると教えることが好きだった私は、多くの生徒に数学を教えるというこの仕事の魅力にすぐにとりつかれた。そして次第に教育というものに強い関心を持つようになった。

理論物理学で大学院へ

私は幼い頃から数が大好きだった。例えば車に乗れば、前を走っている車のナンバープレートの数字たちを並べ替え、足し引き掛けて割り……と躍らせて、その中からできるだけ大きい素数を見つけ出すといった遊びをしていた。

高校時代は、修猷館の仲間達と学生生活を満喫しつつも、数学や物理学に、より深く興味を持つようになった。

そこで大学院では理論物理学、特に統計物理学を専攻し、「スピン系における相転移とその臨界現象」や「低次元量子ス

なのだ。

約4カ月間ほどの博物館教員課程を受講し、7・8冊の歴史書を読み終え、資格を取得した。

この主なるテーマは、異なる人種間の感情やイデオロギーの違いから発生した摩擦や対立の構図が、徐々に差別へと形を変えていった事実だ。その子孫である日系アメリカ人たちの偏見・差別に対する血のにじむような苦勞と戦いがあったから

性外国人と見なされ強制的に収容された。これは自由と平等の上に成り立つ民主主義の原理そのものが崩れてしまった悲しい事実である。短い歴史だが、この博物館には濃い内容が埋蔵されている。来館者にはいつも、以前僕がここで学んだのと同じように、何か「大切な事」を再発見して帰ってほしいと願っている。

全米日系人博物館のホームページ
<http://www.janm.org/>

トルコに入ってはトルコに従え

梅永 哲 (S56年卒)



トルコ人のDNA?

わけて中東の3大民族であり、当然のことながら言語は全く違う。これらの人々が日本と中国と韓国の違いについての確に言えないのとお互い様だろう。

トルコはかつて三大大陸に覇を唱えたオスマン帝国の末裔の国である。帝国を運営した民族の経験から、いい意味でも悪い意味でも官僚制がしっかりと根をおろしており、仕事で政府関係者と折衝する際には骨が折れる。

海外で意外な発見

相手のことをとやかく言っても始まらないので、郷に入っては郷に従えでやっている。外国相手の仕事をしていると、ものごとはすべからず相対的なものであり、絶対はないというのが

「中東」を連想ゲーム風に思いつく言葉を挙げると、一般的にはイスラム教、石油、砂漠、酷暑といったところであろうか。しかし、これらが一番当てはまるのはデューブな中東といえるアラビア半島であり、その他の地域では全く状況が異なる。まず産油国はごく一部である。また砂漠といってもほとんどは土漠であり、らくだが砂丘を歩かなどというのは、ほんの限られたところである。ましてトルコには砂漠は全くなければかりか、水は豊富である。暑さといえばイランやトルコの北部では雪も降る。イスラム教はほぼ当

意外に知らない中東

容された。これは自由と平等の上に成り立つ民主主義の原理そのものが崩れてしまった悲しい事実である。短い歴史だが、この博物館には濃い内容が埋蔵されている。来館者にはいつも、以前僕がここで学んだのと同じように、何か「大切な事」を再発見して帰ってほしいと願っている。



はイスラム教、石油、砂漠、酷暑といったところであろうか。しかし、これらが一番当てはまるのはデューブな中東といえるアラビア半島であり、その他の地域では全く状況が異なる。まず産油国はごく一部である。また砂漠といってもほとんどは土漠であり、らくだが砂丘を歩かなどというのは、ほんの限られたところである。ましてトルコには砂漠は全くなければかりか、水は豊富である。暑さといえばイランやトルコの北部では雪も降る。イスラム教はほぼ当

よくわかる。日本的に当然とされていることが当然でなかったり、こういう考え方もあるのかと意外な発見があったりして、楽しくもあるがしんどくもある。仕事柄こういうことの積み重ねで、自分の主張は横に置いておいて、複眼的なものの見方というか、相手がなぜこのように発想をするのか、相手の立場に立つて考える癖が、知らず知らず身に付いてしまったようである。



イスタンブールのアヤソフィア (537年創建)

東京で学んだ現役修猷生の声

昨年春、修猷館の1年生（現2年）を対象に「第一回東京研修」が行われた。従来、2年生の夏休みに全員を対象に実施されていた「つくば・東京研修旅行」が、県の予算制約の関係から平成18年で取りやめとなり、希望者制として再スタート。400人中92人が参加して、独立行政法人、民間企業や官公庁を訪問、各種講演なども聞いたという。行く先々で、東京修猷会のメンバーが研修に協力した。

西新・福岡から飛び出して、2泊3日との短期間ながら東京でさまざまな体験をした修猷生たち。その感想から一部を紹介したい。

「生といのちを考える」

2年 佐伯幸子・矢次 通・大坂早希

私たちに講義を下された高宮介先輩（S51年卒）は、がん患者さんの痛みを癒すこと、いわゆる緩和ケアを専門とする医師。現在、昭和大学医学部の医学教育推進室に所属して、患者さんのケアとともに医学部生への講義もされている。講義のテーマは「死を通して、生といのちを考える」。ただ若い私たちは普段考えないことが多かったのですが、非常に示唆に富んだお話を伺いました。

緩和ケアのキーワードには「全人的な痛みの緩和」。全人的な痛みとは、身体的な痛みのみならず、精神的・社会的な痛み、スピリチュアルペインから形成されます。スピリチュアルペインには、二つの大きな要素が。一つは「なぜ、自分はこの世に生まれて死んでいくのだろうか。自分の生きてきた意味や役割はなにか」といった問いかけです。もう一つは「死とは何か、死後の世界はあるのか、あるならどんな場所か」といった問いかけです。先生が会った患者さんの一人に、がんで余命が短いことを宣告された女性がいました。その女性には結婚している男性がいたのですが、その男性と結婚式を挙げたそうです。すると彼女の病状は一時的によくなくなりました。そのあと間もなく亡くなったそうです。このように薬などで治療するだけでなく、患者の望みを叶えてあげることが痛みを和らげることができることを知り、胸打たれました。



左から高宮さん（S51年卒）、下田さん（S51年卒）と、講演に聴き入る現役修猷生

高宮先輩が携わった患者さんにお母さん宛の遺書を残した方がいたそうです。21歳の女性の手紙には「これからもしっかりと生きていってほしい」と母親のことを心配していることがたくさん書いてありました。そして最後は「ありがとうございました」という言葉で結ばれていたそうです。なくしそうな大切な人の存在のありがたさに気づくのもかもしれません。今後何十年生きられるかという保証はないのに、普段が健康だから身近な人や自分のそばにある見えない死の存在に気がつかないため、一日一日を粗末に生きています。しかし死を目前にした患者さんは違います。生きることに一生懸命です。かけがえのない命を持つ健康な私たちは、もっと日々を大切に生きていかなければなりません。（中略）

両親や家族、先生、友人たち。自分のまわりにいるみんなと出会えたことに感謝しながら、修猷館での日々や今後の日々を大切に、私たちは生きていきたいと思っています。



初日の3月21日には、OB官僚との懇親会が。厚生労働省の業務について、現役生へ説明する原口さん（S56年卒）

修猷館バレーボール部は、昭和2年に「排球部」として創部され、昭和20年代初に「バレーボール部」となりました。

【歴史】

戦前、九州では無敵。西日本大会で数度優勝しています。戦後、昭和23・24年には、インターハイベスト8に入り、9人制での黄金期を迎えました。昭和30年代中頃からは6人制への対応が遅れ、一時成績が低迷しますが、昭和49年には、福岡県中部地区優勝を果たしました。以後昭和60年

修猷館バレーボール部



練習に励む現役生

まで常時県大会に出場し、6人制の黄金期を迎えました。他校より早く、コンビバレーを取り入れた結果ですが、第2体育館の完成もこれを後押ししたものであると思います。

【記念行事開催】平成19年8月19日（日）午後1時、全国から約70名のOB・OGが青春の思い出の地、西新・修猷館に集合し、OB戦が行われました。

行われました。現役時代以上の気合を見せる方、体が付いてこない方、応援専門の方など、皆それぞれに楽しみました。その後、福岡国際ホールで現役を交えての懇親会が開催され、OBから現役への厳しい叱咤・激励もありましたが、当の現役はひたすら、食う、食う、飲む、飲む、でした。ここでも全員が笑顔だったのが印象的でした。

【伝統の力】

最近の戦績は、福岡県中部地区で3回戦進出程度です。しかし、他校の先生方から「修猷館は公式戦の時の集中力が他校とは違う」と、よく褒めていただけています。これも「伝統」の力でしょうか。

江頭 邦明（S56年卒）

創部80年

対福岡中央高校）5. 現役バスケットクリニック（S50年卒木葉君）6. 祝賀会（於ホテルニューオータニ博多）

【記念試合】バスケットクリニック「応援旗」は現役諸君の今後にお役に立てると確信します。そして、「創部80周年記念誌」は編集委員の頑張りで、我々の歴史を振り返るすばらしいものだと思います。

今回の記念事業は、修猷館高校バスケットボール部の更なる発展に寄与し、創部100周年に向かってOB・OG会がますます盛り上がるきっかけになることと思います。

※OB・OGの方で記念誌・記念タオルをご希望の方は左記HPをご覧ください。

◎修猷館高等学校バスケットボール部OB会ホームページ
<http://homepage2.nifty.com/shnyubasketball-obog/index.html>

創部80周年記念事業実行委員長 秋本 亮一（S46年卒）

修猷館バスケットボール部



祝賀会には館長先生をはじめとしたご来賓の方々を含め120名が出席し、盛況の内にバスケット部の歴史を振り返り旧交を温めることが出来ました。これらの事業を、たくさんさんのバスケットボール部OB・OGからご協力をいただき行うことができましたことは感謝の念に堪えません。

第21回東京修猷会二木会ゴルフコンペ

2007年10月21日（日）、埼玉県本庄市の「こだまゴルフクラブ」において、恒例の二木会ゴルフコンペを開催しました。当日は、好天のもと、藤吉相談役、甲畑幹事長をはじめ総勢22名（女性3名）で腕を競い合いました。



スグロは川口幸信くん（グロス82）、女子は松岡郁子さん（グロス93）といずれも幹事学年（S56年卒）でした。

そこそこ距離のあるコースでしたので（6243ヤード）、少し心配していましたが、22名中80台が6名、90台が8名と結構レベルは高かったのではないかと思います。ダブルペリアで集計した結果、優勝は、グロス89、HC15・6、NET73・4で、井上知晴さん（S32年卒）、準優勝は、グロス88、HC13・2、NET74・8で、石橋明さん（S31年卒）でした。今回は、実力者が順当に上位に来たということではないでしょうか。ちなみに、男子のベスト1曲「晴れたり曇ったり」や現在ヒット中の「雨ニモマケズ」など、オリジナル曲のステージを受けて、新たに企画された「Salon de 修猷」の第1回目「宮澤賢治、歌と朗読と、そして、銀河へ」を学生会館で開催しました。

前半は、NHKアナウンサー青木裕子さん（S44年卒）による賢治作品「水仙月の四日」の朗読とシンガーソングライター宇佐元恭一さん（S53年卒）のアドリブによるピアノ演奏のコラボレーション。後半は、宇佐元さんのデビュー

ご家族を含めて80名近くにご来場いただき、大好評のうちに終わることができました。実行委員 柴尾真由美（S55年卒）



1曲「晴れたり曇ったり」や現在ヒット中の「雨ニモマケズ」など、オリジナル曲のステージ。

LA修猷会では年に1、2回同窓会を開催している。

今年は4月28日と9月2日に開催。4月は、卒業生14名とゲスト3名が、ハーバーパレスで中華料理のフルコースを堪能した。19歳から72歳と幅広い。それぞれが自己紹介し、ロサンゼルスに来た理由を語った。

9月は、女性初のブロック長として活躍した慶応大学石橋マリアさんの訪問にちなんで開催。参加者には、副ブロック長、陸上長、総まとめ役など運動会で活躍された方が多く、昔は女性ブロック長などありえなかったこと、2年ブロック長が出現したことなどで話がもりあがった。当日は摂氏38度の猛暑。その中、



4月の会

ロサンゼルス便り



9月の会

博多風水吹き、焼き鳥などを楽しんだ。

4月と9月のいずれかの会の参加者: 田中憲明(S28)、大迫(森久)道子(S29)・孝義夫妻、永川文一(S36)、桑本英彦(S37)、桑本公子(S37)、西山薫(S49)、ローレンス・ドレイバンド(ゲスト)、山田哲義(S49)、前野(松井)美詠子(S56)・ジョン夫妻、河野弘(S56)、樫山(宮原)ゆかり(S57)、龍圭一(S62)ソレンバーガー(池田)紀子(S63)・ジム夫妻、松沙利悟(H13)、伊藤輝之(H15)、石橋マリア(H16)、山本千恵美(H16)、中村詩織(H18)

※皆様の多大な寄付に感謝致します。

※現在、米国西部在住修猷生は30人。未登録の方、居住予定の方はぜひご連絡ください。(S57年卒 樫山)

メール r-yamada@sbcglobal.net

「荀子」を持ち出してしかるべき根拠を説明してくれている)、地域ごとに福岡(本部)、近畿、東京の三つの三思会から構成されている。

三思会総会の開催場所は福岡が最も多いものの、京都、沖縄

の集まりであった。大きく変わったきっかけは今年から22年前、昭和60年(1985年)、すなわち修猷館の創立200周年を祝う記念すべき年に東京修猷会の総会を担当したことである。「他の学年では絶対に遭遇する

我々、昭和34年卒の同期会は卒業年に因んで「三思会」と称し(命名に当たっては同期の識者が中国の

昭和34年卒 学年便り



赤坂プリンスホテル新館の大宴会場を借り切った総会は大盛況。講師神田紅(昭和46年卒)の司会、舞台上に勢ぞろいしたオーケストラの演奏をバックにした館歌の大斉唱でスタート。同窓生によって編成された大合唱団による「修猷賛歌」(200周年を記念して作られた)の合唱、駆けつけた文部大臣による祝賀の挨拶等々、どれをとっても創立200周年を飾るに相応しい場面が展開された。

創立200周年総会、そして沖縄から北海道まで
新装なった修猷館に集合、昔とは様変わりした清潔な校舎内を散策しながら、行き会った生徒達から「こんにちわ」と言う挨拶を受けて、そのさわやかさと気持ちの良さに至福のときを過ごした。昨年(平成18年)秋に開催され、約100名の同期生が集まった三思会総会の開始イベント「新校舎見学」の様様である。

で1回ずつ開催しており、次回卒業50周年を記念して北海道での開催が決まっている。

我々東京地区の東京三思会は約30年ほど前に連絡が取れるメンバーが集まって飲み会を開いたのが発端で、当初は20人前後人、寄付総額1000万円。

会場を後にされる同窓生の方々から口々にかけて頂く「ありがとう」の言葉を聞きながら「修猷館を卒業して良かった」と心から嬉しかったのがつい昨日のように思い出される。記念品として編纂した職業別同窓生名簿も好評を博し、もちろん、動員数、寄付総額ともに十分に目標を達成できていた。

以後の東京三思会の定期会合には毎年40〜50名が集まるようになった。ほとんどのメンバーが現役を引退した近年は定期会合以外にもゴルフ会、グルメの会、囲碁の会等、いろいろな名目をつけては集まる回数が増えている。

卒業後半世紀近くが過ぎれば、鬼籍に入る同期生も増え(現在約1割)、あの顔の顔も偲ばれて寂しいが、集えば気分はたちまち修猷健児である。青春の血の名残が玄界灘のさざ波のように騒ぎ出して、老後には一番の良薬となりそうである。

東京三思会 水野 務(S34年卒)

卒業生の本

「あなたの会社は大丈夫?」
著者 白木大五郎(S35年卒)
丸善プラネット 1470円
コンプライアンス経営上、必要とされる理念や考え方を、社会的事件や不祥事例にもとづき、標語・川柳312選にまとめて解説。
馴染みにくいテーマを分かりやすく楽しく読めるようにした本。「罪重し犯したことより隠すこと」等

2007年 二木会

- | | | |
|-------|---------|---|
| 第535回 | 2007.1 | クリストファー遥盟氏(外部講師)
尺八演奏家
『ニッポンの伝統芸能
～邦楽を取り巻く現状と尺八演奏』 |
| 第536回 | 2007.2 | 泉 龍太郎氏(S52年卒)
宇宙航空研究開発機構 主任研究員
『ニッポンの宇宙開発
～国際宇宙ステーション計画と今後の動向』 |
| 第537回 | 2007.3 | 城戸 秀夫氏(S26年卒)
バリ島 日本語学校主宰
『ニッポンの海外ボランティア活動
～バリ島での日本語教育の取り組み』 |
| 第538回 | 2007.4 | 松瀬 孝氏(S54年卒)
ノンフィクションライター
『ニッポンの指導力
～私が出会った名指導者たち』
宇佐元 恭一氏(S53年卒)
シンガーソングライター
『少年の僕に手紙を書いた
～ピアノによる弾き語り』 |
| 第539回 | 2007.5 | 高橋 礼一郎氏(S50年卒)
外務省国際協力局参事官
『ニッポンの外交
～ODA(途上国援助)の現状と課題』 |
| 第540回 | 2007.7 | 清水 久美子氏(S43年卒)
ノンフィクション作家・絵本作家
『ニッポンの達人たち
～私が会った素敵な人々』 |
| 第541回 | 2007.9 | 鈴木 智美氏(S55年卒)
東京外国語大学留学生日本語教育センター准教授
『現代日本語のおもしろさ
～日本語教育の観点からの再発見』 |
| 第542回 | 2007.10 | 松岡 恭子氏(S58年卒)
建築家・東京電機大学未来科学部建築学科准教授
『40cmから4kmまでのデザイン』 |
| 第543回 | 2007.11 | 原田 義昭氏(S38年卒)
財務金融委員長・衆議院議員
『衆参ねじれ下における今後の政治運営』
新企画 Salon de 修猷
青木 裕子氏(S44年卒)
NHKアナウンサー
宇佐元 恭一氏(S53年卒)
シンガーソングライター
『宮澤賢治、歌と朗読と、そして、銀河へ』 |
| | 2007.12 | 忘年会
講演内容は、下記HPにアップしています。 |

東京修猷会URL <http://shuyu.gr.jp/tokyo/>

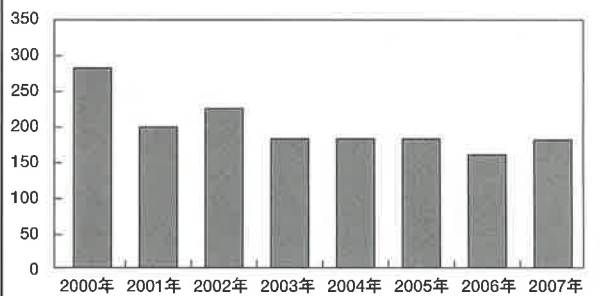
2007年度寄付金

2006年11月1日から2007年10月31日までに175名の皆様から寄付金が納入されています。ありがとうございました。お礼の意味を込めてお名前を掲載させていただきます(敬称略・卒年別)
また、年会費の納入をまだ済まされていない方は、同封の郵便振替用紙にて早速ご送金くださるようお願い申し上げます。(一口3千円)。3千円を超えた額は寄付扱いとします。

00170-6-172892 東京修猷会事務局

同窓会本部、中嶋利昭(館長)、水崎雄文(恩師)、白木英治(恩師)、石丸鉄太郎(近畿修猷会会長)、(昭9)富田明德、(昭11)橋本胖、(昭12)宮川一二、鎌田正行、(昭15)明石隆次、高川正通、村山繁雄、(昭17)安藤雄三、(昭18)不破敬一郎、鶴田一白、(昭19)毛利昂志、田尻重彦、早野俊一、中島睦月、(昭20(5))尾島成美、ジャニイ岩橋、(昭20(4))野上三男、田中庸夫、山本敏男、(昭21)太田昭、稗田孝道、(昭22)木下洋一、伊藤輝夫、高島一衛、濱田理、増崎昭夫、(昭23)林圭之助、伊岐和男、大西勇、荒谷俊治、白木彬雄、柳泰行、(昭25)松岡肇、山本義治、(昭26)常岡宏、石塚和男、石田洵一、大穂圭一、太田進、大平修、小西正利、庄野隆夫、淵上貫之、藤吉敏生、中村道生、廣瀬貞雄、(昭27)難波榮彦、柳喜美子、飯田英子、徳山悟郎、田辺萌、和栗真次郎、福田純也、金田久仁彦、(昭28)児玉黎子、(昭29)村越登、長尾淑實、長野偉士、高木道子、(昭30)城川明、堤正、藤吉健司、原田雅弘、遠山壽一、徳田洋次、岩田至道、塩沢孝憲、坂本幸治、石川洋介、久保久、喜多村寿信、(昭31)阿部公明、近藤徹、箱島信一、村田和夫、中村保夫、伊達直哉、(昭32)鳥居健太、島上清明、山本貞昭、平野熙幸、井上智晴、寺澤美和子、米倉實、(昭33)武石忠彦、松永貴子、河野理、(昭34)伴拓郎、尾崎文彦、小金丸則幸、岩田龍一郎、川辺猷治、讃井邦夫、大谷南郎、加藤泰、行武賢一、(昭35)松尾俊一、羽立教江、中村純男、伊藤洋子、可児晋、(昭36)田中直樹、安藤誠四郎、井上清、倉成洋三、土井高夫、高村修一、中島成之、光安哲夫、横倉稔明、(昭37)小野寺夏生、大須賀頼彦、古川靖、(昭38)上田茂、穂積憲重、渡辺紀大、(昭39)久保田康史、松井碧、貝島資邦、松本睦彦、(昭40)荒津一郎、泉和雄、長谷川閑史、森秀則、石橋完、筑紫勝磨、棚町精子、(昭41)新井真理子、森田澄夫、渡辺耕士、木川理二郎、田口俊彦、安田修之助、(昭43)広瀬豊、伊豆安生、(昭44)横田勝介、甲畑真知子、(昭45)本田由紀子、坂口健介、(昭46)鹿兒島正信、(昭47)塚本幸一、(昭49)井手富士雄、橋村秀喜、阿河勝久、古森光一郎、(昭50)乙藤光男、小林みどり、野中哲昌、(昭51)安東泰隆、桐明幸弘、油田哲、(昭52)寺岡隆宏、古賀敏文、江藤和実、野手弘一、三島裕史、(昭53)上蘭勉、藤勝之、西村健志郎、(昭54)中原誠也、松尾隆広、(昭55)吉田聡、柴田幸一郎、(昭56)岩崎早苗、隈元慶幸、田中昭人、副島久靖、(昭57)樫山ゆかり、(昭58)井手慶祐、田籠礼二、(昭60)朱雀誉史、(昭62)鎌倉靖二、剣彰彦、(平3)岩松洋史、(平8)寺林健

寄付していただいた方の人数



ご寄付いただいた方が伸び悩んでいます。事務局の健全な運営のため、ご協力お願い致します。

環境に配慮した車作りが我々の使命



今日の環境問題の深刻化に危惧を抱いている修猷同窓生は多々いるものと思ひ、当社での取組みを紹介することにします。

近年の中国を始めとした新興経済国における自動車需要の伸びは、想像をこえるものがある。こうした世界状況の中、今後環境、燃費の抜本的な対策なくして自動車産業の生き残りは不可能というところまで時代は動いてきているといえる。

中川 勝弘
(トヨタ自動車 取締役副会長 S35年卒)

自動車産業は何をすべきか、その使命は重い。ハイブリッドを始め今まで以上に環境にやさしい車づくり、エタノールなどの代替エネルギー活用、燃料電池車の開発、そしてITSの活用による交通インフラの整備などやるべきことは多い。当社では、その中でも環境対策としてハイブリッド技術がきわめて重要だと考えている。

ハイブリッド技術は、簡単にいうと、ガソリンエンジンで活用されずに捨てていたエネルギーを再生し電気に変えて、ガソリンエンジンとあわせてモーターも動かすという原理である。

君を紹介して欲しいという手紙をいただきました。その後、二人の間では情報交換などの交流が始まっているそうです。

また、掲載の三日後にはMSさんという方が、インターネットのHP「修猷の四季」のなかで、「友との縁、友と歩んだ道をいかにも修猷らしく語っています。」と紹介していただき、さらに「修猷の卒業生が共通して言うことは『修猷では周りに優しい人たちがいた。』」(中略)こうやって周りを認め、その中に居た自分を誇る雰囲気というのは他の学校の同窓生にはないことでしょう。」と結び、修猷卒業生の多くに共通する想いを適切に表現されていました。

副会長便り

大須賀 頼彦
(小田急電鉄 取締役社長 S37年卒)

少年の頃、学生時代、そして社会に出てからと、これまでに知り合えた「交友」のある方々は数多(あまた)です。

一昨年の師走、日経のコラム「交遊抄」への投稿依頼を受けたときは、さていつの時代のどの付き合いを書こうかと、少々困惑しました。結局、そこにも書きましたが、「心身が大きく成長する高校時代の友人」として、修猷同窓で在福の二人に登場してもらいました。

関心の高いコラムらしく反響も多く、福岡市議会議長(当時)のS君には、全国各地から便りや電話が連日だったとか。

私は、邪馬台国九州説の信奉者という見ず知らずの方から、「古代史探訪が趣味」としたO

同じ空気の中で過ごした共感



絵画クラブで悠々自適の同期、富永明君(左)の発表会で

仕事では、様々な場面でも多くの方々と接触がありますが、話すうちに同じ修猷の卒業生だと分かり、急に話が進んだという経験をお持ちの方も多いと思います。それは、単に同窓という繋がりだけではなく、青春の時期、年次は違っても同じ空気の中で過ごしたという共感が生じるからではないでしょうか。

その意味で、これからも二木会を始め、修猷の集まりには出来るだけ顔を出して交遊を広めたいと思っています。

執行部紹介

主催しました最後の学年です。

執行部では名簿を担当してまいります。名簿を拝見しながら、時代の推移に思いを馳せている昨今です。

昨年度より幹事長を務めています44年卒の甲畑です。

女性初という重圧を、世代を超えた同窓の方々とお励みいただき、お酒を酌み交わし語り得た喜びで、今は「これぞ役得！」と感じています。

会の運営を献身的に支えてくれている副幹事長の仲間達や幹事学年の方々に感謝。



(甲畑)

昭和50年卒の野中です。二木会学年担当で副幹事長という同期の策略にダマされて副幹事長を拝命して以来早6年。いつの間にか最年長の副幹事長です。従来やってきた二木会、HPの業務は徐々に若い後輩に任せつつ、総務担当として微力ながら幹事長の下働きを勤めています。



(野中)

昭和51年卒の安東です。2002年に総会の実行委員長を務めてからどっぷりと修猷に浸かっています。会報の編集のほか、総会や常任幹事会を担当しています。「司会の声だけはいいね」と言われたいよう、今後、中身の充実を精進いたします。



(安東)

昭和51年卒の坪根と申します。2002年総会の幹事学年、経団連会館で



(坪根)

同窓会総会・懇親会の会場を大手町の経団連会館から永田町の都市センターホテルに変更した時の幹事学年、昭和52年卒の寺岡です。



(寺岡)

昭和52卒の田代です。白井先輩と本田先輩から会計を引き継ぎ、同期の寺岡さんと会計事務の処理に携わっています。会務にはあまり参加できず両先輩のようにいきませんが、金庫番の役目は果たしたいと思っています。



(田代)



(岡藤)

東京修猷会 執行部組織図
(2008年1月1日現在)

会長

副会長

執行部

幹事長	甲畑真知子	S44	執行部統括
副幹事長	野中 哲昌	S50	総務、二木会、ホームページ
副幹事長	安東 泰隆	S51	総務、総会、常任幹事会、会報
副幹事長	坪根みさ子	S51	名簿
副幹事長	寺岡 隆宏	S52	会計、ホームページ、ゴルフ
副幹事長	田代 桂子	S52	会計
副幹事長	松尾 隆広	S54	総会、常任幹事会、二木会(ゴルフ)
副幹事長	岡藤 正章	S55	二木会、会報、福岡県人会

東京修猷会二〇〇八年活動スケジュール

二木会は六、八月を除く毎月第二木曜日
六時から食事、七時から講演

1月	会報発行 正月に全会員に送付
2月	吉田 宏 福岡市長(外部講師)
3月	二木会 於：学士会館
4月	二木会(新人歓迎会) 於：二木会
5月	二木会 於：二木会
6月	二木会 於：二木会
7月	二木会 於：二木会
8月	二木会 於：二木会
9月	二木会 於：二木会
10月	二木会 於：二木会
11月	二木会 於：二木会
12月	二木会 於：二木会